

◆ 研究部 ◆

「全連小山口大会」を振り返って

研究部長

田村 博 孝



十月二十一日から三日間にわたって開催された全連小山口大会は、天候にも恵まれ、盛会の内に無事に終了することができました。大会の準備・運営に関わった方々も、ほっとされたのではないかと思います。

大会の一日目となる二十一日には、「分科会の打合せ」が開催され、研究発表者と分科会役員が、初めて顔合わせをしました。翌日の分科会の運営について、日程や協議のポイントなどを確認したわけですが、短い時間の中で打ち解けた雰囲気をつくりだそうと努めておられました。

二日目の二十二日には、午前中の全体会で、「大会主題・副主題趣旨説明」を行いました。ここでは、副主題「志を高くもち 未来へ向かって 共にたくましく生きる子どもを育てる学校経営の推進」について説明するとともに、「大会運営方針」にも触れました。

また、これと平行して、分科会場では最終点検を行い、午後の本番に備えました。分科会場は分散しており、アリーナと離れた会場もあったため、携帯電話で連絡ができるように体制を整

えておきました。実際、他県の学校から緊急連絡が数件入っており、非常の場合に備える大切さを痛感しました。

夕方には、分科会役員の代表に集まっていたいただき、翌日の「研究協議のまとめ」で使用する原稿を作成しました。かなり時間がかかるかと思いましたが、事前にある程度原案を作成していたので、二十時半までには終わることができました。

三日目となる最終日には、その原稿を基に、分科会の報告をしました。報告に割当てられた時間は、十分というものでしたので、内容を分かりやすく端的に表現するように心掛け、「分科会の主な協議内容」と「大会運営方針」について言及しました。

私自身、研究部長として全連小山口大会にかかわるようになって、四年が経過しました。この間、責任の重さを痛感したこともありましたが、会員の皆様の御協力が無事務めを終えることができ、今は安堵しております。本当に、ありがとうございます。

各 専 門 部 か ら の 報 告

◆ 対策部 ◆

未来を拓くたくましい「やまぐちっ子」の育成に向けた提言を

対策部長

磯部 昭彦



本年度も各支部の校長先生方の貴重な御意見を参考にして、提言書の作成に取り組んできました。また、中学校長会や教育関係諸団体と連携しながら、教育行政と学校が力を合わせ山口県教育を充実させるという視点で、提言書を作成した。

山口県教育委員会においては、めざす「やまぐちっ子」のすがたとして、「①高い志をもち、未来に向かって挑戦し続ける人、②知・徳・体の調和がとれ、他者とのつながりを大切にしながら力強く生きていく人、③郷土に誇りと愛着をもち、グローバルな視点で社会に参画する人」の三つを設定し、山口県らしい教育の推進を図っている。山口県小学校長会としても、県の教育目標の実現に向けて、一丸となって努力しているところである。

本年度、提言書に新たに加えた『キーワード』は、副校長の配置、事務長の配置拡大、複式学級編制基準の見直し、道徳教育及び外国語活動の充実、採用試験の一層の工夫改善、学校への苦情対策、会議や行事、調査物の見直しによる一層の業務改善の七つである。この七つのキーワードのベースには、県教委が本年度も重点的に進めている「学力向上、教職員の人材育成、やまぐち型地域連携教育の推進」の三つの柱がある。

この中で、コミュニティ・スクールの取組は、全国的には全県を挙げて進んでいる県は少なく、山口県が全国トップの座を占めている。また、「地域協育ネット」については、山口県独自の施策であるので、他の都道府県との比較は難しい。したがって、他の都道府県の校長と議論しても、今一つのみあわないことがあるのは事実である。今後は、全国的な動きもにらみながら、未来を拓くたくましい「やまぐちっ子」の育成に向けて、校長会として努力すべきことは何か、教育行政に提言すべきことは何かを明らかにすること、校長会の存在感を示していきたいと思う。